

さくらば いわき ひろこ
桜庭(岩城) 弘子さん

十勝毎日新聞社販売局 販売部長

1971年生まれ、北見市出身。大学を卒業後、同社に入社。編集局社会部記者を務めた後、整理部へ異動し編集の仕事に15年間従事。この間に結婚、出産。フリーマガジンChai編集部副編集長を経て編集長。2017年より現職。同社で女性初の部長職となる。



笑顔と周囲への感謝を忘れずに

きっかけ

歴史や考古学が好きで大学で西洋史学や地域文化を学びました。就職するにあたっては、好きな歴史を伝える仕事がしくて、新聞、放送関係の会社を受け、十勝毎日新聞社に就職しました。何故か女性初となることが多いんです。最初に配属になった社会部では女性初の警察担当になりましたし、整理部で編集に携っていた時には女性初の主任に、その後異動した Chai 編集部では女性初の編集長になり、現在は女性初の販売部長にさせていただきました。なりたいと思ってやってきたわけではなく、やっていたらなったという感じです。だからこそ続いているのかな。

苦労

一番大変だったのは Chai 編集部で異動した時でしょうか。元々、激務だと聞いていたのですが、仕事もよく分からないうちに、編集長が急に辞めることになって、自分が編集長に。子供も3歳でまだ手がかかる時期でしたし、更に追い打ちをかけるように夫が東京へ転勤！辞めたいとも思いましたが、夫の「やってみてダメだったら辞めたら」という言葉で楽になりました。あとは、周りのメンバーがものすごくサポートしてくれて乗り越えられました。メンバーには本当に感謝ですね。この時期を乗り越えられて自信が付きましてが、振り返ればこの時が一番楽しい仕事だったと思います。

満足度

それぞれの職場でやりがいは違いますね。記者時代は無我夢中でしたが、真っ白いところから紙面を作っていくこと自体が楽しかったですし、読者から「あの見出しを付けてくれて良かった」と言っていたのが編集の記者冥利につきました。Chai 時代は一から企画を練ったものが1冊の本になるという充実感がありました。Chai に載ったからお客さんが増えたなど、読者に加えて、掲載した方の反応もあって。子どもが自分の仕事を理解し応援してくれているのも大きな支えです。今の販売の仕事は、読者に一番近い仕事。読んでいただく方が増えればそれだけ多くの方に地域の重要な情報を伝える事ができることになるので、それが励みですね。

これから

弊社は、2019年 で創立 100 周年。これからの 100 年を見据えて、販売店の新しい形を作るという大きなテーマを与えられています。とてもプレッシャーがありますが、「かちまい」として地域の方々役に立つお店づくりを考えていきたいと思っています。また、女性社員として、後輩達の良きモデルになる働き方をしないとならないと思います。仕事も大切ですが、やはり子供や家族が一番大事。女性社員の割合も増えてきていますから、仕事と家族のバランスをうまくとりながら働くことができることを、社内のロールモデルとして見せられるようにしていきたいと思っています。

私のモットーは、「笑顔と周囲への感謝を忘れずに」です。仕事も子育ても肩の力を抜いて頑張りすぎないのが大事だと思います。大変な時は周りの人に助けを求めることを悪いことと感じないでほしいですね。そのためには、常日頃からのコミュニケーションが大切です。